

Focus Green

～二世帯の距離感～

既存の親世帯に対面する新たな子世帯を、同一敷地内につくる二世帯住宅の提案。

お互い居心地の良い距離感をいかにつくるかがテーマであった。

様々な生活の営みと、それに相応しい距離感を自分たちで自在に操作できる仕組みを提案した。

1 緑をはさむ

二世帯住宅の間に緩衝帯として共通の庭をはさむ。緑にフォーカスをはさむことでお互いの視線が相手住宅から反れ距離感を生む。



親世帯(右)と新たな子世帯(左)の間に共有の庭を配置し、ビントを緑に合わせることで、お互いの距離感を緩やかにする。

2 斜めの奥行き

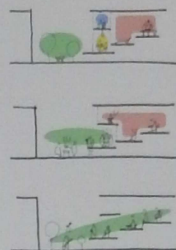
限られた面積の敷地条件から、二世帯住宅は正対する配置になる。子世帯の断面構成を中庭から建物の奥に向かって段状にずらすことで斜めの奥行きが生まれ、お互いの視線の下部を和らげる。



土間よりキッチンを見上げる。空間はひとつながりだが、床レベルのずれによって視覚的距離感が生まれる。

3 スクリーン

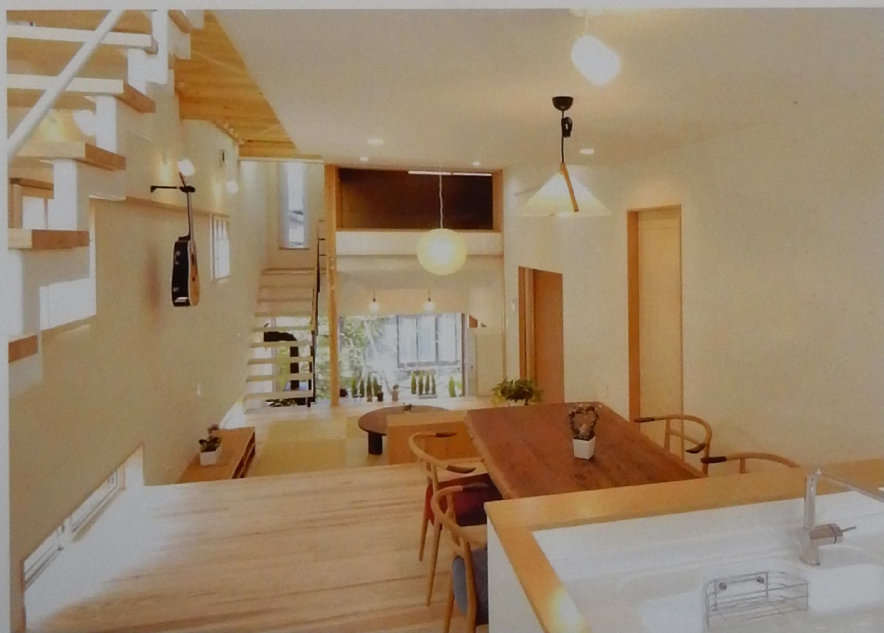
自在に可変できるスクリーン(障子)を「斜めの奥行き」の中に設定することで、パブリック性とプライバシー性を建物の中で自在にコントロールすることができる。



スクリーン(障子)を可変することで、アクティビティに合わせた距離感(パブリック性とプライバシー性の伸縮)を自在にコントロールできる



リビングと土間の境界スクリーン(障子)を全て閉じると、天井の高いプライベートリビングが生れる。



キッチンより中庭を見下ろす。ダイニング・リビング・土間・テラス・中庭へと連続していく。

